



日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)
 《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男
 一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2番2号
 TEL: 03-3519-5181 FAX: 03-3597-5171
 メール: jaera-homepage@elv.or.jp H P: http://www.elv.or.jp/

自動車リサイクル士新制度施行後初の新規講習会

自リ士、新規講習会(2会場)開催決定

2016年度 開催日程

日 程	会 場	詳 細
2016年 10月6日(木) 7日(金)	仙台会場	戦災復興記念館 4階 第1会議室 〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町2-12-1 ※会場詳細は こちら をご確認ください。
2016年 11月9日(水) 10日(木)	東京会場	LMJ東京研修センター 5階 大会議室 〒113-0033 東京都文京区本郷1-11-14 小倉ビル ※会場詳細は こちら をご確認ください。

ELV機構主催の「自動車リサイクル士制度認定講習会」が仙台と東京の2会場で開催されることが決定しました。これは、2016年4月1日からの新制度施行後初の新規受講者を対象とした講習会です。

新制度において、自動車リサイクル士は「引取・フロン工程」と「全工程」の2つの資格となりました。講習会は全2日間の日程となっていますが、引取・フロン工程は1日目の受講のみ、全工程は全2日間の受講と2日目に行われる修了試験での合格が必要です。

※受講料や申込方法などの詳細は「案内文書」をご確認ください。
 ※受講をご希望の方は、「申込書」に必要事項を記入してお手続きください。

CHECK!

<案内文書>

http://www.elv.or.jp/media/12/20160809-2016_jirisi_new_guide.pdf

<申 込 書> ※PDFの2枚目・Excelの2シート目は記入例です

▼印刷して手書きされる方向け: PDF

http://www.elv.or.jp/media/12/20160809-2016_jirisi_new_app.pdf

▼データ上で入力される方向け: Excel

http://www.elv.or.jp/media/12/20160809-2016_jirisi_new_app.xlsx

目 次

巻頭言 1
 自動車リサイクル士 1
 JIS開発事業 4
 常任役員会 5
 審議会関連検討会 5
 地域団体活動紹介 5
 メーカー提供記事【トヨタ】 6
 鉄スクラップ最新情報 7
 行事予定・お知らせ 8
 編集後記 8

NEW



今号より自動車メーカー提供記事の掲載が始まりました!

巻頭言

第31回夏季オリンピック・リオデジャネイロ大会が日本史上最多メダル41個を獲得し、閉幕しました。柔道、レスリングなど様々な種目でメダル獲得という結果でしたので、日本人として大変誇りに思います。メダルを獲得する種目は、競技人口が増えると聞きます。それは、選手の「格好良さ」=「憧憬(憧れ)」から多くの子供達の心を掴むのでしょうか。プールに入っても水が怖くて顔をつけることが出来なかった娘も競泳の中継を見て、今年の夏、泳げるようになりました。そこには「憧憬」と「イメージ」があり、成功があります。オリンピックを通して先を歩む者の影響力と責任を痛感しました。

(広報部会 木村 香奈子)

「自動車リサイクル士制度」とは？

そもそも「自動車リサイクル士制度」とはどのような制度なのか、ここであらためて制度内容についてまとめてお伝えしたいと思います。

目 的

自動車リサイクル法に基づく使用済自動車の適正処理を促進し、将来的な優良事業者(会社)育成のために、自動車リサイクル士制度を通して人を育成することを目的としています。

内 容

自動車リサイクルに関わるすべての関係事業者を対象として、自動車リサイクル法の正確な理解や自動車リサイクルに関する技術・知識の習得を支援し、その知識レベルを認定するものです。

※「自動車リサイクル士制度」は、ELV機構独自の資格認定制度です。

資 格

「自動車リサイクル士(引取・フロン工程)」「自動車リサイクル士(全工程)」の2種類の資格があります。それぞれの資格付与要件を満たした方には、ELV機構の代表理事がその知識レベルを認定して資格認定証書を発行しています。

資格の種類	資格付与要件	試験の有無
引取・フロン工程	講習会(1日間)を受講すること	無
全工程	講習会(2日間)を受講して試験で一定の点数を取ること	有

■自動車リサイクル士(引取・フロン工程)

使用済自動車の引取業務およびフロン類回収業務とそれに伴う電子マニフェストシステム操作を担う実務作業業者

求められる知識

- ・自動車リサイクル法とその関連法規の知識
- ・使用済自動車の引取業務およびフロン類回収業務に関する知識

■自動車リサイクル士(全工程)

自動車リサイクル事業に関するすべての業務を管理し、事業所全体の運営や実務作業の適正管理、作業員の教育を行う運営責任者

求められる知識

- ・自動車リサイクル法とその関連法規の知識
- ・自動車リサイクルに関するすべての業務の流れと具体的な作業内容の知識
- ・安全作業・衛生管理やマネジメントなどの知識

※資格有効期限※

資格有効期限は、どちらの資格も資格認定日から5年間です。(有効期限切れ＝資格失効)

(例) 2016年10月6日資格取得 → 有効期限:2021年10月6日まで

資格を維持するためには、有効期限内に更新手続きが必要となります。

協 力

日本自動車工業会、自動車リサイクル促進センター、自動車再資源化協力機構、その他関係者の皆様

「自動車リサイクル士 新制度移行特別認定講習会」の報告

前号でもお伝えしたとおり、7月22日に岡山会場(岡山県岡山市ノみのるガーデン)で、新制度移行のための講習会が開催されました。今号では、当日の受講者アンケートの結果について報告します。



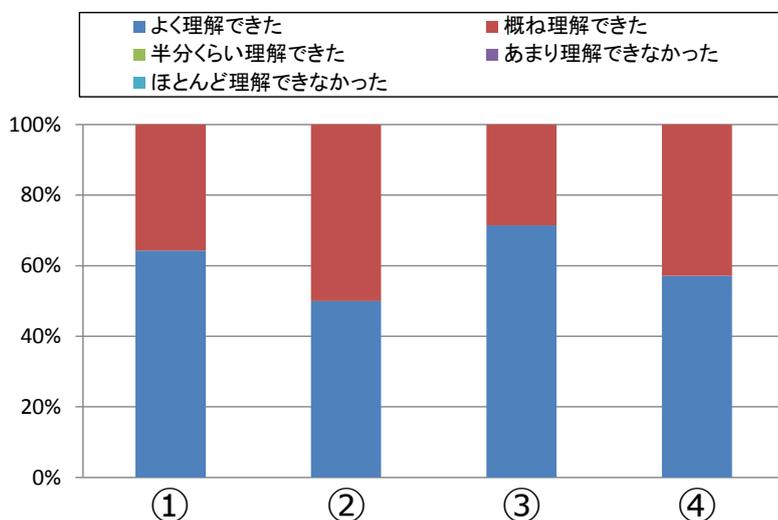
アンケート結果

(実施日：2016年7月22日／実施対象：受講者14名)

【講習内容】

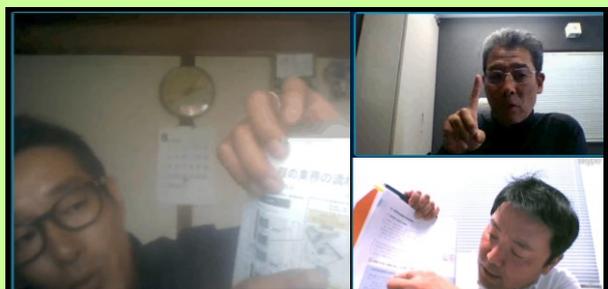
	内容	講師
①	自動車リサイクルの実務	有原
②	自動車メーカーの取り組み	伊地知
③	自動車リサイクル業界の取り組み	佐々木
④	マネジメント	三木

【各講習の理解度】



【講習に関するご意見】 ※抜粋・原文ママ

- 講習を受講する事で再確認できる事が有り、勉強になるので良かった。
- とてもわかり易い内容でした。これからもまた知識を広くするためにも、講習会をして頂きたいです。……など



10月・11月の新規講習会に向けて・・・

新規講習会に向け、講習内容の検討などを行う「カリキュラムWG」は4月から15回もの会議を重ね、その他にも各会場講師を務める方のために参考資料として手本映像の撮影を実施するなど、現在精力的に準備を進めております。受講者の皆様に「受けてよかった！」とっていただけるような講習会にすべく全力を尽くしますので、ぜひ受講をご検討いただければ幸いです。

経産省受託JIS開発事業、今年12月には原案を提出

ELV機構が事務局として推進している経済産業省高機能JIS等整備事業(以下「JIS開発事業」)は、今年度2年目を迎えましたが、今年度は最終年でもあります。昨年度の議論をふまえて調査・検討を行い、今年12月にはJIS規格原案を日本規格協会へ提出する予定です。原案作成にあたっては、業界関係者で構成されるWGメンバーの皆様にご多大なるご尽力をいただいております。

そもそもJIS開発事業とは？

JIS開発事業は、ユーザーにとってわかりやすい情報の提供とその表示方法を開発することで、安全で安心なリサイクル部品の利用促進を図るための事業です。本事業におけるJIS規格は、部品の性能を評価するようなものではなく、ユーザーが部品の状態を把握するために参考となるような情報を表示する方法(=ラベリング)をJIS規格として定めるものです。

* 右図は現段階のラベルイメージです。



2016年度の活動内容 (以下の活動を経て、今年12月にラベリング規格の原案提出)

1. ラベルに記載する基本的情報項目の特定

① 国内流通の調査

インターネットを使ってユーザーを対象としたアンケート調査を実施し、検討している情報項目が必要十分であるかを検証。

② リコール等への対応手法の検討

使用段階で明らかとなったリコールに対して、この規格を活用したトレーサビリティの方法を検討し、情報項目の過不足を整理。

③ 海外流通の調査

海外に事業拠点を持つ解体業者等へのヒアリングにより、海外のリサイクル部品流通において必要とされる情報項目の調査を実施。

2. ラベルの識別・表示方法の検討

① ラベルの在り方の検討

情報項目を記載したラベルはリサイクル部品と必ず紐づけておく必要があるため、ラベルを部品に直接貼付するのか、貼付できないような部品への対応はどうするか……などを検討。

② 表示方法の検討

ラベルを直接貼付するのであれば、ラベルシールを作成して実際の耐久性などを検証。ラベルを書類として保管する形をとるのであれば、その保管方法や記載形式などを検討。

3. 委員会・WGの開催実績 (2016年8月現在)

■2016年4月18日(月)「第1回原案作成WG」

■2016年6月20日(月)「第2回原案作成WG」

■2016年8月 2日(火)「第3回原案作成WG」

■2016年8月26日(金)「第1回原案作成委員会」



* 写真は第1回原案作成委員会開催時に撮影したものです。

第2回常任役員会を開催



8月18日、ELV機構会議室(東京都港区)にて、「第2回常任役員会」が開催されました。

酒井代表理事をはじめ、石上副代表理事、永田副代表理事、木内副代表理事、埜村副代表理事、平地ブロック長会議長といった常任役員6名全員が参加し、日本自動車リサイクル研究所準備室のメンバーらと同研究所設立に関する協議を行いました。

次回(第3回)は、9月27日に開催される予定です。

審議会関連検討会に参加

8月23日、三菱総合研究所(東京都千代田区)にて、「第5回自動車リサイクルに係る3Rの推進・質の向上に向けた検討会」が開催されました。ELV機構からは木内副代表理事が委員として参加し、酒井代表理事、埜村副代表理事、事務局が随行しました。

本検討会は、前号でお伝えした「情報発信の在り方等に関する検討会」と同様に第5回をもってすべての開催予定が終了し、これまでに審議してきた内容は報告書としてとりまとめられ、産構審・中環審合同会議(本年秋頃開催予定)にて報告が行われます。

【審議会関連の流れ】

- 2016年7月22日：情報発信の在り方等に関する検討会 第6回開催 → 全日程終了
- 2016年8月23日：自動車リサイクルに係る3Rの推進・質の向上に向けた検討会 第5回開催 → 全日程終了
- 2016年秋頃：産構審・中環審合同会議開催(予定)

本検討会としては最後の開催となる今回は、前回の検討会の内容確認や報告書案の内容確認および検討、今後のスケジュール確認などがなされました。

【地域団体活動紹介】宮城県組合が「適正処理講習会」を開催



講習内容

- リサイクル政策の推進と自動車リサイクル法の施行状況について
東北経済産業局
佐川 泰三 様
- エアバッグ類車上作動処理業務の重要ポイント
自動車再資源化協力機構
鍋谷 佳成 様
- トヨタ流4Sの進め方
～原材料市況に頼らない生き残り戦略～
トヨタL&Fカンパニー
梅原 茂 様

8月23日、エルソーラ仙台(宮城県仙台市)にて、宮城県中古自動車解体再生部品卸協同組合の「第1回例会」が開催され、その中で使用済自動車の適正処理を推進するための講義を中心とした「適正処理講習会」が実施されました。

当日は、来賓(講師を含む)として、宮城県中小企業団体中央会、東北経済産業局、東北地方環境事務所、宮城県環境生活部、仙台市環境局、自動車再資源化協力機構、トヨタL&Fカンパニーの方々が出席され、宮城県中古自動車解体再生部品卸協同組合の組合員のほか、宮城県内の解体業許可業者も参加し、総勢25名の参加がありました。

受講者は厳しい経営環境の中で講義から得られるものを自社の経営に取り入れようと、皆真剣なまなざしで講義に聞き入っており、講師・受講者双方の熱が伝わってくるような講習会となりました。

自動車メーカー提供記事（トヨタ自動車株式会社）

■リサイクルに配慮した設計活動：トヨタオリジナルな易解体設計の取組み

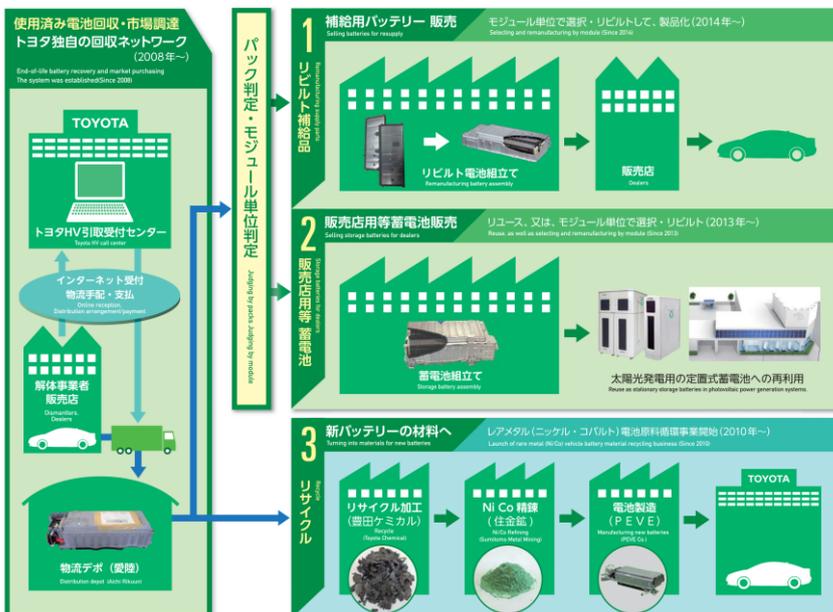


図－1 構造の工夫・易解体設計

トヨタは開発段階の取組みとして、2001年に自動車メーカーでは世界初となるリサイクル専門外部機関である「自動車リサイクル研究所」を設立し、「解体しやすい車両構造開発」・「効率的な解体技術の研究」を10年以上にわたり研究しています。

リサイクル性向上に向けた車両構造提案をトヨタ開発部門に提案するとともに、解体事業者に向けて情報公開(トヨタHP内「[クルマとリサイクル](#)」など)を行っており、各解体現場でのご活用をぜひお願いいたします。

■HVバッテリーのリサイクル促進



図－2 HVバッテリーリサイクルの全体イメージ

1997年12月に世界初の量産ハイブリッド乗用車「プリウス」を発売以来、トヨタは、使用済みバッテリーを豊通リサイクル(株)等と協力し、独自の回収ネットワークで回収しています。回収したHVバッテリーはリビルト補給品や販売店用等蓄電池として再利用を行い、資源の有効活用を推進するとともに、再利用後は、ニッケル・コバルトなどの貴重な金属資源を再び電池の製造原料として活用を進めています。電池回収・再資源化へのご協力をお願いいたします。

< 電池回収問合せ先 >

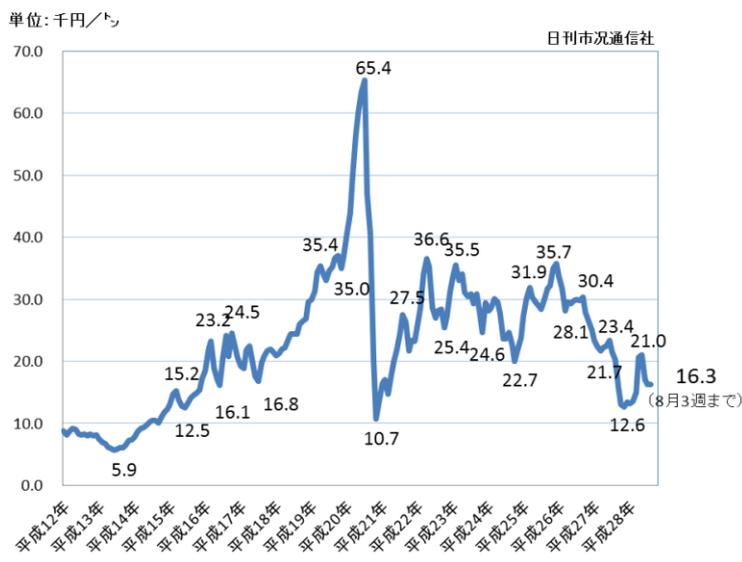
トヨタHV引取受付センター
0120-39-8120

鉄スクラップ最新情報

■ 8月第4週(26日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供: 日刊市況通信社]

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



8月26日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	19,000 ~ 20,000	ジリ高
	南関東	19,000 ~ 20,000	ジリ高
名古屋		18,000 ~ 19,000	強含み
関西	大阪	18,500 ~ 19,500	様子見
	姫路	18,500 ~ 19,500	様子見

輸出市場 現代製鉄が値下げ提示 前回比500円安のH2・FOB21,000円

日本産鉄スクラップの新規輸出成約価格が小幅ながら下落に転じた。これまでの値上がりや円高などを背景に、海外ミルに日本玉に対する高値警戒感が出ていたが、韓国大手の現代製鉄が8月26日、日本側に対して値下げを提示、堅調だった輸出市場の基調が下落へ転じた。

貿易筋によると、日本側と新規輸入商談を行っていた現代製鉄が8月26日、H2に対して1トあたりFOB21,000円を提示した。前回のFOB21,500円から500円の値下がり。また、新断も500円下げのFOB24,000円となった。アジア市場の鋼材・ピレット相場が堅調に推移するなど強材料も多かったが、日本玉が欧米玉に対して割高となったことが値下げの要因となった。また同社が、10月に入着する予定の米国産およびロシア産のスクラップを手当てしていることも下落要因に挙げられる。

新規輸出価格は小幅の下げにとどまり、FAS換算で2万円を維持したが、基調変化を察した日本側に売り急ぐ姿勢も見られ、輸出市場は頭打ち反落局面へと転じている。すでに関東の湾岸商社・シッパー筋の間で集荷価格(浜値)を引き下げる動きも出始めている。

【関東地区】電炉筋の値上げ散発でジリ高

関東市場では、電炉の値上げ改定が散発。関東域内の市中スクラップの荷動きが回復せず、電炉筋は引き合いを強める動きを続けている。市中では「品薄感」が続いており、入荷が使用量に欠ける筋が引き合いを強めている。引き続き、浜値に対して安値水準にある筋は、価格対応を迫られる状況が続く。H2炉前実勢価格は1トあたり19,000~20,000円中心。H2浜値は20,000円中心で湾岸筋は積極的な購入姿勢を維持している。

【東海地区】新断類で500円がたの値上げが広がり強含み

名古屋地区の鉄スクラップ市況は、8月25日から新断類で500円がたの値上げが広がっており、さらに強含みで月末へ向かう公算と見られている。それまでここ1カ月半余りにわたり膠着市況が続いていたが、久しぶりに上伸した。大同特殊鋼、愛知製鋼の2社が、25日から新断の購入価格を500円値上げした影響が大きい。地区電炉メーカーの購入価格引上げは5月11日以来、3カ月半ぶり。H2炉前実勢価格は18,000~19,000円。

【関西地区】輸出差生じるも需要減退で様子見対応

大阪地区の鉄スクラップ市況は、様子見横ばい推移が続いている。韓国向け輸出価格の上伸により地区炉前との乖離が一段と進んだため、ここきて強含みの見方が増え始めつつある。しかし足元に関しては、電炉筋の炉休に伴う需要縮小で一定の入荷が維持されているため、市況膠着の域を抜け出せない状況だ。H2炉前実勢価格は18,500~19,000円(一部上値19,500円)。姫路地区のH2炉前実勢価格は18,500~19,500円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、8月26日午後時点のもの)

行事予定



9月の主な予定

9月1日(木)

- 小島産業株式会社
豊橋工場 見学会

9月6日(火)

- 第2回 ブロック長会議

9月7日(水)

- 関東ブロック会議

9月9日(金)

- 沖縄ブロック会議

9月15日(木)

- 第2回 未来部会

9月17日(土)

- 九州ブロック会議
●中部・北陸ブロック会議

9月20日(火)

- 第6回 広報部会

9月21日(水)

- JIS開発事業
第4回 原案作成WG

9月23日(金)

- 日本オートオークション
協議会との情報交換会

9月27日(火)

- 第3回 常任役員会



お知らせ

◆会員数(2016年8月末日時点)

総数 561社 / 会員 535社、賛助会員 26社

◆自動車メーカーからの提供記事のお知らせ

今号より、自動車メーカーからの提供記事の掲載が始まりました。今号はトヨタ自動車様に情報提供をいただきましたが、次号以降も自動車メーカー各社から易解体設計など自動車リサイクルに関する情報をご提供いただき、掲載していく予定です。引き続きお楽しみに！

※申込締切※
9月9日(金)

◆【未来部会】事業所見学会のご案内

今年度から未来政策部会は「未来部会」と部会名を変更し、次世代を担う人材の交流の場を提供する活動を進めてまいります。その一環として、以下のとおり事業所見学会を開催します。当日は、各関係団体の皆様にご協力いただいて講演会も実施する予定です。奮ってお申し込みください。

※詳細は以下のURLをご確認ください。



CHECK!

詳細 <http://www.elv.or.jp/index.php?itemid=1040>

編集後記

今年の夏は、なんといってもリオ・オリンピックにつきます。今大会の日本選手の活躍は本当に素晴らしく、感動、感動の連続でした。日本は本当に強くなりましたね。ただ辛かったことは、すっかりテレビに釘付けになってしまい、大会期間中、寝不足になってしまったことでしょうか。▼8月24日は日本自動車リサイクル部品協議会より清水信夫会長を機構本部にお招きして懇談会が催されました。ご存じのとおり、清水会長はリサイクル部品業界の草分けです。リサイクル部品業界の草創期より業界発展のために尽力されてこられました。今回の懇談会の目的は、故きを温ねて新しきを知る、すなわち温故知新にあります。リサイクル部品業界の将来を予測するために、今一度、歴史をひもとく、そこから何かしらの光明を見いだそうという意図から企画しました。清水会長に業界の草創期を振り返って頂きながら、予測されるサイクル部品業界の将来像と業界のあるべき形の示唆を頂戴致しました。この懇談会の模様はVol. 91に掲載予定です。▼暑い日々が続いております。残暑の折ご自愛下さい。

(広報部会 部会長 永田 則男)